

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び 評価結果(年度評価)

令和8年3月

静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県コンベンションアーツセンター 公益財団法人静岡県文化財団

2 指定期間

令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 令和6年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和8年1月13日)

【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
梶田 美於	梶田美於バレエスタジオ 代表
小島 孝仁	株式会社CSA 不動産 代表取締役社長
永井 聡子	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授
山本 雅弘	株式会社東平商会代表取締役

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価(5段階評価)

令和6年度実績は、評価点「4.2」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

1. 0～1. 4	1. 5～2. 4	2. 5～3. 4	3. 5～4. 4	4. 5～5. 0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ 評価に関する意見

- 企画事業の集客やレストランカフェ事業など課題はあるものの、利用者の満足度は高く、コンベンション開催件数も順調に推移しており、活動は概ね適切に行われていると評価できる。引き続き、グランシップの価値向上に前向きに取り組んでいただきたい。
- 近年の物価高騰や働き方改革など、時代の変化に対して迅速に対応されており、限られた中でも施設利用者に楽しんでいただける企画や、施設の利用方法を工夫されている点は、素晴らしいと感じている。
また、現状にとどまることなく「グランシップ」という施設をより幅広い方々にご利用いただけるよう、今後も企画・運営に取り組んでいただきたい。
- 音楽文化と伝統芸能を、広範囲で質の高い事業を目指すのであれば、グランシップならではの先鋭的な企画立案ができることを期待する。
また、中ホールが演劇仕様であるならば、ニーズの検討をしつつ、一から制作する専門性の構築がプログラムには必要。
一本でも二本でもトライして、他のパッケージ公演と連携し、再来場者を増やし、大ホール等の利用を上げていくことを期待する。

(2) 県評価の概要

ア 総評

(公財) 静岡県文化財団は、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 数値目標の達成状況

項 目	R 6 計画	R 6 実績	達成
グランシップ企画事業鑑賞者数	100,000 人	79,801 人	×
グランシップ企画事業ネット配信閲覧回数	最終年度 150,000 回	983,609 回	○
グランシップ企画事業県民参加者延べ人数	5,000 人	2,765 人	×
グランシップ企画事業子ども学生鑑賞・参加者数	10,000 人	8,519 人	×
グランシップ企画事業再来場希望者率	90.0%	98.4%	○
グランシップ企画事業初体験者率	30.0%	48.9%	○
サポート企業・個人数	最終年度 500 団体・人	52	—
人材育成事業参加者数	40 人	92 人	○
文化芸術分野の一般県民鑑賞・参加貸館催事件数	110 件	140 件	○
コンベンションの開催件数	45 件	59 件	○
期間外予約の獲得件数	50 件	44 件	×

催事開催支援サービス取扱件数	2,000 件	1,532 件	×
催事利用者の来館者数	650,000 人	417,142 人	×
催事利用者以外の来館者数	27,000 人	89,390 人	○
レストラン・カフェ利用者数	23,000 人	12,576 人	×
施設稼働率	80.0%	75.9%	△
施設管理瑕疵に起因する事故	0 件	0 件	○
総エネルギー消費量	▲1.0%	▲1.4%	○
貸館利用者の満足度	86.0%	96.3%	○

※ 「○」目標達成、「△」目標達成率90%以上、「×」目標達成率90%未満

[全 般]

- ・数値目標全体としては、19項目中10項目で目標を達成した。目標には届かなかったが「企画事業鑑賞者数」「企画事業子ども学生鑑賞・参加者者数」等は、昨年度に引き続き前年度を上回る実績となった。
- ・レストラン利用者数が昨年度より増加した点は評価できる。さらに目標に近づくことを期待したい。

ウ 実施業務別評価

(ア) グランシップ企画事業

多彩な文化芸術分野での鑑賞・参加など様々な形での体験

- ・子ども・子育て世代への支援では、アウトリーチ事業や出前公演を県内東部や西部でも多く実施し、子どもたちに本物の文化に触れる貴重な機会を提供した。また、ひとり親家庭の公演招待は、文化芸術に触れる機会を増やすきっかけとなった。今後も、子どものうちから文化芸術に触れるきっかけづくりを進められるよう取組を続けられたい。
- ・音楽文化等の普及・振興については、新たな試みとして開催した音楽公演に多くの方が来場し満足度も高かった。また本県出身アーティストを起用した公演を積極的に実施されていた。企画・広報を工夫して音楽文化の普及拡大に取り組んでいただきたい。
- ・伝統芸能の継承については、若い世代が伝統芸能を身近に感じたり、多言語字幕サービスを取り入れるなど新たな取組による多様な鑑賞者への鑑賞機会の提供に取り組まれている。継続して取り組んでいただくとともに、今後は地域の伝統芸能に着目した事業の企画を期待する。
- ・文芸・美術等の振興については、「しずおか連詩の会」における創作中のSNSを活用した発信や、高等学校文芸部とのワークショップなどの積極的な取組が評価できる。今後は県が実施する文芸・美術等の事業との連携を期待する。

(イ) グランシップ企画事業を支える運営体制

県民参加による運営

・サポーター制度は、現状に合わせて見直しを行い、登録期間を短くして参加しやすく改善された。グランシップの活動を支え、県民が自主的に参加・参画できる場の提供に引き続き努めていただきたい。

広報・宣伝

・広報・宣伝は、公演ごとにターゲットにあわせた広報媒体を活用し、さらに多くの方の目や耳に届き、集客に繋げられるよう情報の伝え方を工夫されたい。

新しい支援を得る取り組み

・子どものための取組に対し企業協賛を得る「こどもたちのための文化芸術プロジェクト」は、今後も継続し、多くの協賛をいただけるよう努められたい。

(ウ) 施設の利用に関する業務

文化芸術活動の場づくり

・営業努力の結果、学会が多く開催され、コンベンション開催数は目標を上回っている。グランシップの特色を活かし、引き続き大規模コンベンションを誘致できるよう努めていただきたい。

国内外との交流促進を図る活動の支援

・関係機関と連携し、情報共有や意見交換を行うなど、誘致活動も積極的に取り組まれている。

デジタル技術等を活用した顧客サービスの向上

・デジタル化に対応した顧客サービスに努められている。今後も利用者へのサービスの充実に努めていただきたい。

(エ) 施設の維持管理に関する業務

安心・安全・快適な施設

・建物の築年数が経過し、修繕必要箇所が増えている中で、迅速に適切に施設の管理や運営をされている。引き続き県と連携し、安心・安全な施設管理に努めていただきたい。

環境負荷の低減に配慮した施設運営

・環境負荷の低減に配慮しながらコスト削減を進めるなど、省エネを推進されている。引き続き、環境に配慮した施設運営に努めていただきたい。

社会のデジタル環境に対応できる施設管理

・県が行ったLAN工事と高速通信専用回線を活用し、利便性が向上した。また多くの利用者がオンライン予約を活用しており周知が図られている。

(オ) その他運営に関する業務

賑わいを生み出す取組、施設の有効活用

・広場はマルシェやヨガイベント等でも活用され、東静岡地区のにぎわいを創出している。今後も、これまでになかった施設の利用方法を検討し、施設の有効活用に取り組んでいただきたい。

その他運営に関する業務

・コロナ禍以降の社会の変化により施設利用者の利用形態や目的も変わってきている。社会の流れを察知し、的確に対応できるよう期待する。

・レストランの利用者数は昨年度より増加しており、さらに多くのお客様に来ていただける工夫が必要。

(カ) 運営体制及び組織

組織

・利用者が安全に施設を利用できるよう、引き続き体制の強化に取り組んでいただきたい。

働きやすい職場づくり

・勤務シフトの細分化やメンター制度の導入などの取組の効果を分析するなど、改善の継続に期待したい。

リスクマネジメント

・実践的な防災訓練を行い、万が一の際の対応を確認していることは利用者の安全につながる。引き続き取り組んでいただきたい。

安定した財務管理と適切なコスト管理

・収入の確保として、各種助成制度の積極的な活用には引き続き取り組まれない。人件費や物価高騰により厳しい状況の中、2年連続して黒字となったことは経費削減等努力の賜物であり評価できる。